

地球の平和を築くために

多摩市立豊ヶ丘小学校 5年 北岸 愛美

私が多摩市子ども被爆地派遣事業を通して思ったことは、みんなが「戦争について知ろうとしているんだ」と言うことです。それを実感したところが二つあります。

一つ目は、事前活動の時です。事前活動の自己紹介で意気込みを伝える時に、派遣員メンバー、一人ひとりがしっかり考えて具体的に伝えていたところや、くにたち原爆体験伝承講話の時にしっかり聞きながらメモを取っているところ、図書館での学習で戦争や広島についての本をたくさん読んでメモを取っていた姿を見て、派遣員それぞれが平和について学びたいという強い気持ちを感じました。そして二つ目は、実際に広島に行って、平和記念式典に参列した時です。私たち以外にも多くの方がいて、とても広い会場なのに、ほぼ満席になっていて、今ここに多くの人が戦争について知ろうとしているんだと思いました。

そして、多摩市子ども被爆地派遣事業に参加して良かったと思ったところはたくさんありましたが、その中でも良かったところが二つあります。一つ目は、平和記念式典に参列できたことです。過去にテレビで何度か見たことがあり、実際に参列することは難しいだろうと思っていた8月6日の平和記念式典。ノーモアヒロシマ、ノーモアナガサキ、これからの平和な未来を思い、戦争という過ちを二度と繰り返してはならない、世界のすべての争いがなくなるようにとの思い、祈りが世界中から集まってくるような空気に包まれていくようで、こんなに緊張感があると思いませんでした。二つ目は、灯ろう流しを見ることができたことです。灯ろう流しも過去にテレビで何度か見ていて、願い事を書いてみたいな…、流してみたいな…、そして一番に思ったのは、実際に見る事ができたら、とても綺麗だろうなと思っていたからです。今年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で自分の手で流す事はできませんでしたが、願いを書き、多くの灯ろうが流れる様子を見ることができました。

ロシアによるウクライナ侵攻という大きな戦争が起きている今、私は広島にも昔、このような戦争が起き、核兵器によって焼け野原になってしまったことを学びました。核兵器がどんなに怖いものなのか、被爆した人が日本人だけではなくたということ、そして77年経った今、放射能汚染により草木が生えないだろうといわれたことが嘘のように水と緑に恵まれて活力ある街に復興し、見違えるほどきれいになったことを知りました。放射線や黒い雨を浴びてしまった後遺症などによって苦しんでいる人、亡くなっている人が77年経った今でも、いることを知りました。多摩市子ども被爆地派遣事業に参加する前と参加した後で大きな変化を自分自身で感じとることができました。

もし、いつか家族などで広島に行く事があったら、自分でみんなを案内したいと思います。今回行った場所の説明をしたいです。そして今回学んだことを身近な人からどんどん伝えていきたいです。原子爆弾がどれほど怖い核兵器なのかを第一に、平和な世界、平和な地球になるよう伝えていきたいです。たった一つしかない地球の命を守るために…。